

基金21見直し進捗状況

分類	内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入口戦略	提案書作成前の段階での県の分野別事業説明会の実施	課題部門説明会で実施済み	・課題部門説明会で実施予定 ・同じ活動分野のNPO、関連する県の部署との情報交換会を検討中	継続
出口戦略	メンターによる伴走型支援（支援対象のNPOに対して特定の専門家が、一定期間、団体に「寄り添い」、助言する形態）	2団体で試行開始	試行の継続 試行団体の拡大	本格実施 （2年目以降の継続事業を対象）
	基金21助成終了団体に既存事業、今後実施予定の事業への応募を促し支援を継続し自立化を促進する。	・メールマガジンでの情報提供実施済み ・終了団体に対し案内チラシを配布 企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業等	継続	継続
	基金21でNPO運営モデルを研究・開発し、自立化に活用する。	NPOの運営モデルに関する資料を収集し検討	NPO自立化支援マニュアルの作成	NPO自立化支援マニュアルの活用
中間支援組織等への支援強化	中間支援組織等によるNPO支援の協働事業・補助事業の提案を促し、積極的に採択する。	応募要領（審査基準等）の見直し	継続	継続

基金21の過去の対象事業を分析し得た自立化の事業モデル・事業運営ノウハウを集めたマニュアルを作成する。今後の基金事業課の支援に役立てると共に県内の中間支援組織、NPOに提供し、団体の自立化に活用していただく。

1 自立化できるNPO運営モデル

基金21の過去の対象事業を分析し、自立化に参考となるNPO運営モデルの事例集を作成する。NPOに関する既存の研究成果を活用する。

自立化の参考になるソーシャルビジネスのモデルについても解説する。

基金21の対象事業をモデルに当てはめ、モデル毎に過去の事業を使って成功のポイントを解説する。

(例) 寄付モデルの事例・・・スマイル・オブ・キッズ 寄付集めのノウハウ
福祉モデルの事例・・・スペース・ナナ 就労支援作業所B型の認定
事業収入型の事例・・・ハッピーマザーミュージック

2 神奈川県内のNPOが活用できるリソース(資源)

- 県内の中間支援組織の提供している支援メニュー一覧
- 助成制度(自治体・民間)
- 自治体との協働事業(MICかながわの事例)
- ファンドレイジング(ファンドレックスの成長支援事業の成果)
- クラウドファンディングのやり方((特非)エンパワメントかながわの事例)
- プロボノの受け方((特非)サービスグラント、(特非)湘南DVサポートセンター)
- 指定・認定NPOの取得((特非)エンパワメントかながわの事例)
- SNSの活用(フェイスブック等)
- 無料で活用できるITのサービス(salesforce.com,google)
- 若者の受け入れ((特非)アクションポートの成長支援事業の成果)
- 大学のボランティアセンター一覧
- 企業のCSR部門
- マスコミの活用方法((特非)ママ・プラグの事例)
- 融資(政策金融公庫の事例)

リソース等は日々進化するので、数年に1回は更新し、WEB等でPDFを配布する。

中間支援組織等への支援強化について（当初案）

基金 2 1 の見直しの中で基金 2 1 による中間支援組織等への支援強化が定められた。（平成 2 6 年 5 月 1 5 日合同会議で決定）

3	中間支援組織等への支援強化
	中間支援組織及び中間支援機能を有する組織による他のボランティア団体を支援する協働事業・補助事業の提案を促し、積極的に採択する。
	（内容）
	審査基準を見直し、中間支援組織による N P O 団体支援をする協働事業・補助事業の提案を促す。過去に基金 2 1 の協働事業・補助事業の対象となった事業も中間支援の機能を新たに追加した事業提案であれば、再度助成対象とする。
	（実施時期）
	平成 2 6 年度 審査基準の見直し、中間支援機能を有する組織への広報
	平成 2 7 年度 実施

協働事業審査基準案

基本的な視点	評価項目と配点			
協働の評価	必要性	提案された事業は県と協働する必要性が高いものか	5点	15点
	協働効果(A)	ボランティア団体等は、関係者の強みを活かして連携し、事業をより効果的に行うことが期待できるか	5点	
	協働効果(B)	事業の受益者は、その事業が協働して行われることによって、単独で行われるよりも質の高い又は多様なサービス等の提供を受けることを期待できるか。	5点	
計画の評価	ニーズ	提案された事業は、社会にとって重要性、緊急性の高いものにチャレンジするものか	5点	25点
	担い手	事業の担い手は、当該事業を実施する上で、必要な専門的な知識や経験、ネットワークを有し、それを事業の計画に活かした企画となっているか	5点	
	手法	提案された事業は、課題解決のために効果的な手法となっているか	5点	
	費用対効果	収支予算は、ボランティア団体等の本来事業と整合性が図られており、提案された事業を実施するための経費が適切に計上されているか	5点	
	中間支援	提案された事業は、同じ活動分野の他のボランティア団体等に専門ノウハウを提供する等の中間支援機能を有するか	5点	
期待できる効果	自立性	ボランティア団体等の会員や利用者の増加や組織的基盤の整備に結びつき、安定的で継続的な活動が期待できるか	5点	15点
	先駆性	提案された事業は、県の取組みや社会に対してインパクト（影響）を与え、新たな仕組みを生み出すことなどが期待できるか	5点	
	普及	提案された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	
合計				55点

補助金審査基準案

基本的な視点	評価項目と配点			
計画の評価	ニーズ(A)	申請された事業は、社会にとって必要性、重要性の高いものにチャレンジするものか	5点	35点
	ニーズ(B)	社会システムが十分に整備されていない領域に取り組む事業であるか	5点	
	自主性	申請された事業は、自主性の高い活動であり、申請者の熱意が分かりやすく伝わるものとなっているか	5点	
	担い手	事業の担い手は、当該事業を実施する上での、必要な専門的な知識や経験、ネットワークを有し、それを事業の計画に活かした企画となっているか	5点	
	手法	申請された事業は、課題解決のために効果的な手法となっているか	5点	
	費用対効果	収支予算は、ボランティア団体等の本来事業と整合性が図られており、申請された事業を実施するための経費が適切に計上されているか	5点	
	中間支援	提案された事業は、同じ活動分野の他のボランティア団体等に専門ノウハウを提供する等の中間支援機能を有するか	5点	
期待できる効果	実現性	申請された事業は、計画どおりに実施される可能性が高いか	5点	20点
	自立性	ボランティア団体等の会員や利用者の増加や組織的基盤の整備に結びつき、安定的で継続的な活動が期待できるか	5点	
	先駆性	申請された事業は、社会に対してインパクト（影響）を与えることが期待できるか	5点	
	普及	申請された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	
合計				55点

(幹事会での主な意見)

この項目は、「計画の評価」ではなく、「期待できる効果」の「普及」ではないか。「計画」に盛り込んでしまうと、本来の計画に無理やり中間支援の内容を追加するようなことを促してしまうことになる。

中間支援機能を強化していきたいというときに、直接中間支援そのものを目指す提案を期待するのか、それとも、ノウハウや成果を積極的に公開するという間接的な提案が増えることを期待するのか。

従来から来ている提案の中で、「これはそういった成果も見込めるよね」というのならよいが、中間支援そのものを目的にするのなら、これとはまた違った評価にしないと難しい。それを従来のものに押し込もうとすることに無理がある。

中間支援組織及び中間支援機能を有する組織に対する支援強化について

実現したいこと

基金21への「他のNPOを支援する事業提案」を促し、中間支援組織及び中間支援機能を有する組織（以下「中間支援組織等」という。）を通じた県内のNPO支援基盤を充実していく。（既存の中間支援組織等による他のNPO支援だけでなく、通常のNPOが中間支援機能を有する組織となるように誘導する。）

1. 強化対象となる団体の分類

中間支援を目的としている団体	分野横断	(株)ファンドレックス (特非)ソーシャルコーディネートかながわ (特非)アクションポート横浜 (特非)市民セクターよこはま・・福祉重点	成長支援 負担金・補助金
	分野特化	(特非)よこはま地域福祉研究センター 全国小規模保育協議会 (特非)かながわ福祉移動サービスネットワーク	
自ら事業を行いつつ、中間支援機能も目的としている団体	分野横断	(株)イータウン(港南台タウンカフェ) (特非)ぐらす・かわさき	今回の強化対象
自ら事業を行う中で、中間支援機能も担っている団体	分野特化	横浜市CB相談窓口となっている団体 (特非)樹(アップレ)など 相談や見学の受入れ (特非)ふらっとステーション・ドリーム ノウハウ移転、講演など	
依頼があれば、中間支援機能の発揮を厭わない団体	分野特化	成功モデル、先進的モデルの団体 (特非)びーのびーの 視察受入れ、本の発行	

2. 中間支援機能の発揮方法

(深度)	個別支援	集団支援
浅い ↑↓ 深い	視察	情報発信(報告書や媒体、講演等)
	相談	現場見学会
	助言	セミナー
	ハンズオン支援 ノウハウ移転	事業モデル構築

3. 支援対象

事業を行いながら（自ら実践者の立場でありつつ）、中間支援機能を併せ持っているとする事業者（成功モデル、先進モデルの波及）

過去に基金21の協働事業負担金・補助金の対象となった事業でも対象事業をモデル化し同じ活動分野の他のボランティア団体に事業モデル・ノウハウを移転する等の事業提案であれば、再度助成対象とする。

過去の対象事業者の再度の採択対象案件

対象事業と同一	同一事業の推進を目的としつつ、一部中間支援も付加（×）
	同一事業をモデルとして中間支援を行う（ ） 今回
対象事業から発展	同一事業の次のステップ、事業の拡大 など（ ）

4. 具体的対応

別紙調整案参照

中間支援組織及び中間支援機能を有する組織に対する支援強化調整案

	案の1	案の2	案の3
概要	過去の対象事業であっても同一事業をモデルとして中間支援を行う場合は再度助成対象とする。	過去の対象事業であっても同一事業をモデルとして中間支援を行う場合は再度助成対象とする。 提案書、審査基準の変更	過去の対象事業であっても同一事業をモデルとして中間支援を行う場合は再度助成対象とする。 「中間支援部門」を新設 提案書の変更
具体的変更点	応募要領に過去の対象事業者も再度応募が可能であることを明記	応募要領に過去の対象事業者も再度応募が可能であることを明記 提案書の中に「他団体に対する波及効果」などの項目を新たに付加する 審査基準に『波及効果』「提案された事業は、同じ活動分野の他のボランティア団体等に対するモデル性を有し、それら団体の成長に役立つ波及効果が見込めるか」を追加する。	応募要領に過去の対象事業者も再度応募が可能であることを明記 提案書の中に「中間支援の発揮」について、明確に付言する項目の設定
長所	変更が少ない。	明確な中間支援機能の有無に関わらず同じ土俵で評価することが考えられる。	中間支援組織に対する県の支援強化が明確になる。
短所	中間支援機能を評価できない。	一方、提案書に明確に中間支援を目的として折り込んで記載しているものと、結果として見込める間接的效果を記載しているものを、同一の評価基準で判断せねばならぬ点に難しさもある。	部門が一般部門・課題部門・中間支援部門となり審査・事務処理が煩雑化する。今後採択本数が激減することが予想されるので、中間支援部門が採択できないこともある。

協働事業審査基準案

基本的な視点	評価項目と配点			
協働の評価	必要性	提案された事業は県と協働する必要性が高いものか	5点	15点
	協働効果(A)	ボランティア団体等は、関係者の強みを活かして連携し、事業をより効果的に行うことが期待できるか	5点	
	協働効果(B)	事業の受益者は、その事業が協働して行われることによって、単独で行われるよりも質の高い又は多様なサービス等の提供を受けることを期待できるか。	5点	
計画の評価	ニーズ	提案された事業は、社会にとって重要性、緊急性の高いものにチャレンジするものか	5点	20点
	担い手	事業の担い手は、当該事業を実施する上で、必要な専門的な知識や経験、ネットワークを有し、それを事業の計画に活かした企画となっているか	5点	
	手法	提案された事業は、課題解決のために効果的な手法となっているか	5点	
	費用対効果	収支予算は、ボランティア団体等の本来事業と整合性が図られており、提案された事業を実施するための経費が適切に計上されているか	5点	
期待できる効果	自立性	ボランティア団体等の会員・利用者の増加や、理解者・協力者の拡大が見込み、組織的基盤の整備に結びつき、活動の安定・継続、発展が期待できるか	5点	15点
	先駆性	提案された事業は、県の取組みや社会に対してインパクト(影響)を与え、新たな仕組みを生み出すことなどが期待できるか	5点	
	普及	提案された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	
	波及効果	提案された事業は、同じ活動分野の他のボランティア団体等に対するモデル性を有し、それら団体の成長に役立つ波及効果が見込めるか	5点	
合計				50点

(現在の基準の効果の項目)

期待できる効果	自立性	ボランティア団体等の会員や利用者の増加や組織的基盤の整備に結びつき、安定的で継続的な活動が期待できるか	5点	15点
	先駆性	提案された事業は、県の取組みや社会に対してインパクト(影響)を与え、新たな仕組みを生み出すことなどが期待できるか	5点	
	普及	提案された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	

補助金審査基準案

基本的な視点	評価項目と配点			
計画の評価	ニーズ(A)	申請された事業は、社会にとって必要性、重要性の高いものにチャレンジするものか	5点	30点
	ニーズ(B)	社会システムが十分に整備されていない領域に取り組む事業であるか	5点	
	自主性	申請された事業は、自主性の高い活動であり、申請者の熱意が分かりやすく伝わるものとなっているか	5点	
	担い手	事業の担い手は、当該事業を実施する上での、必要な専門的な知識や経験、ネットワークを有し、それを事業の計画に活かした企画となっているか	5点	
	手法	申請された事業は、課題解決のために効果的な手法となっているか	5点	
	費用対効果	収支予算は、ボランティア団体等の本来事業と整合性が図られており、申請された事業を実施するための経費が適切に計上されているか	5点	
期待できる効果	実現性	申請された事業は、計画どおりに実施される可能性が高いか	5点	20点
	自立性	ボランティア団体等の会員・利用者の増加や、理解者・協力者の拡大が見込め、組織的基盤の整備に結びつき、活動の安定・継続、発展が期待できるか	5点	
	先駆性	申請された事業は、社会に対してインパクト（影響）を与えることが期待できるか	5点	
	普及 及	提案された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	
	波及効果	提案された事業は、同じ活動分野の他のボランティア団体等に対するモデル性を有し、それら団体の成長に役立つ波及効果が見込めるか	5点	
合計				50点

(現在の基準の効果の項目)

期待できる効果	実現性	申請された事業は、計画どおりに実施される可能性が高いか	5点	20点
	自立性	ボランティア団体等の会員や利用者の増加や組織的基盤の整備に結びつき、安定的で継続的な活動が期待できるか	5点	
	先駆性	申請された事業は、社会に対してインパクト（影響）を与えることが期待できるか	5点	
	普及 及	申請された事業は、理解者や協力者の拡大が見込めるものであり、他の人々や団体等に理解され、活動の発展にも寄与することが期待できるか	5点	